

ゼロカーボン行動 十勝宣言

～千里の道も一歩から
一人ひとりが今できる行動を～



ZERO CARBON
HOKKAIDO

TOKACHI



令和3年12月

「ゼロカーボン行動 十勝宣言」発起人一同

※ このロゴデザインには、ここ十勝からゼロカーボン北海道の実現に向けた取組が芽生え、皆で大切に育てることで大きな木へ成長させようという願いが込められています。円形は地球を、緑は十勝の豊かな大地と自然を、青は広い空と海をイメージしています。

ゼロカーボン行動 十勝宣言

近年、気候変動による豪雨や猛暑などの気象災害が世界中で頻発し、今後もその危険性は更に高まることが懸念されています。地球温暖化は、未来世代にも大きな影響を及ぼすことから、今を生きる私たちが着手すべき最も重要な課題です。

私たちの十勝は、温室効果ガスの吸収元となる森林資源が豊富なほか、全道一の日照時間を活かした太陽光発電や家畜ふん尿などを利用したバイオマス発電が盛んであり、さらには環境対策に積極的に取り組む多くの市町村や企業・団体が存在し、「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた取組を進めていく上で、既に高い潜在能力を有し、全道のフロントランナーとなり得る地域です。

一方、脱炭素の取組主体は、個人や企業・団体、道、市町村、国など多種多様であり、それぞれの取組の温室効果ガス削減に対する貢献度も様々です。加えて、脱炭素社会実現の鍵を握る電力構成等は、国のエネルギー政策と密接に関係するなど、個人や企業等の取組だけでは、到底、ゴールにたどり着くことはできませんが、それでも私たちは今、自分たちにできることをやらなければなりません。

まずは、個人や事業所が日常活動を見つめ直し、一人ひとりができることから意識して行動に移し、その取組の輪を広げることで地域全体の機運を醸成し、更なる取組へとつなげていくことが重要です。そして、その取組の連鎖は、多様な主体による取組と相まって、2050年までに脱炭素社会の実現という大きな目標の達成につながると確信しています。千里の道も一歩からです。

私たちは、ふるさと十勝の持続的発展を希求し、それぞれは小さな行動ではあるけれど、確実に脱炭素社会の実現に貢献できる、誰もが今すぐ取り組むことができる日常のゼロカーボン行動を着実に実践してまいります。

令和3年12月14日

《 発起人 》

十勝総合振興局、十勝教育局、帯広市、十勝町村会、帯広商工会議所、十勝管内商工会連合会、十勝観光連盟、十勝地区バス協会、十勝地区ハイヤー協会、十勝地区農業協同組合長会、十勝地区森林組合振興会、東北海道木材協会、十勝管内漁協組合長会、帯広建設業協会、十勝測量設計協会、十勝老人福祉施設協議会、十勝小・中校長会、帯広市校長会、北海道高等学校長協会十勝支部、北海道特別支援学校長会十勝支部、十勝管内PTA連合会、帯広市PTA連合会

「誰もが、今すぐ取り組むことができる日常のゼロカーボン行動」 ～ 千里の道も一歩から ～

一 省エネの取組を進めます

- ・ 休み時間や使用しない場所の消灯など照明時間の短縮
- ・ パソコン等事務機器の省電力機能（電源オフ、スリープモード）の活用
- ・ 冷暖房の設定温度や稼働時間の適切な管理
- ・ 気候、室温に合わせた服装（ナチュラルビズスタイル）の励行 など

一 省資源の取組を進めます

- ・ 資料の電子化、共有化によるペーパーレス化
- ・ トイレ、給湯室などの節水による水使用量の削減
- ・ マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用などプラスチック製品の削減
- ・ 食べきれぬ量の食事注文や食品保存の工夫による食品ロスの削減
- ・ ごみの適正分別による資源ごみの再生利用の徹底 など

一 環境負荷を減らす行動を徹底します

- ・ 徒歩、自転車、公共交通機関での移動によるマイカー利用の抑制
- ・ エコドライブ（急発進の抑制、定速走行、アイドリングストップ）の推進
- ・ テレワークやオンライン会議の活用などによる移動機会の低減 など

一（施設・車輛等の更新の際）エネルギーの効率化を進めます

- ・ 再生可能エネルギーの積極的な活用を検討
- ・ 次世代自動車やエネルギー効率の高い建物への転換を検討 など

一 環境保全活動に積極的に参画します

- ・ 清掃活動や植林運動など地域の地球温暖化防止活動への参加・協力 など

これらの行動の実践は、SDGsの17のゴールのうち、次のゴールにつながります



ゼロカーボンを巡る国内外の動き

2015年

11月 COP21 **パリ協定**

- ・ 世界共通の長期目標として、産業革命からの気温上昇を2℃未満に保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求

2020年

3月 道による「**ゼロカーボン北海道**」表明

- ・ 2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロ

10月 国による**カーボンニュートラル宣言**

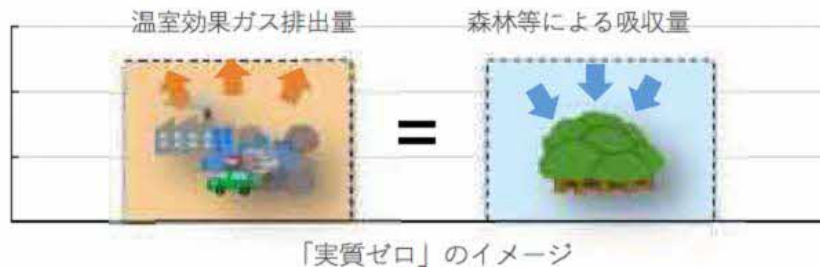
- ・ 2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指す

2021年

11月 COP26 **グラスゴー合意**

- ・ 世界共通の長期目標として気温上昇幅を1.5℃に抑える努力の追求を決意

2050年までに道内の温室効果ガス排出量を実質ゼロとする
 ("**ゼロカーボン北海道**" の実現)



2050年までの「ゼロカーボン北海道」の実現

- 再生可能エネルギーと吸収源の最大限の活用
- 地域循環共生圏の創造による環境・経済・社会の統合的な向上
- イノベーションによる社会システムの脱炭素化
- 暮らしの快適性・健康性の向上、防災・減災性能の向上
- 真に豊かで誇りを持てる社会を次の世代へ

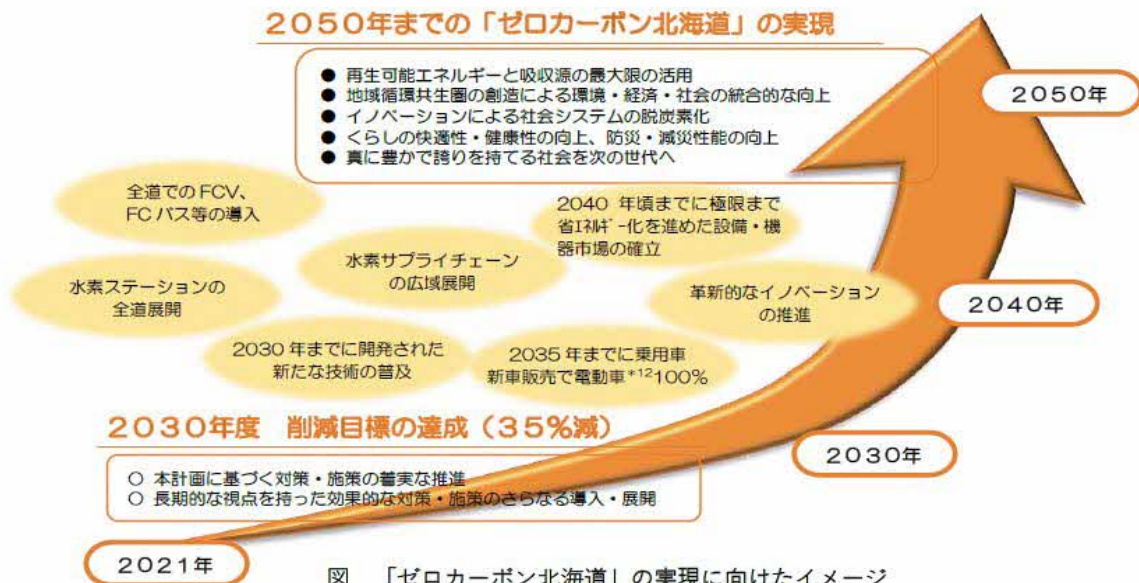


図 「ゼロカーボン北海道」の実現に向けたイメージ

みんなで取り組むゼロカーボン

～千里の道も一歩から～

“

森が燃えていました
森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました
でもクリキンディという名の
ハチドリだけはいつたりきたり
口ばしで水のしずくを一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをしていったい何になるんだ」
とって笑います
クリキンディはこう答えました

「私は、私にできることをしているだけ」 ”

出典：「ハチドリのひとしずく」 辻信一監修 光文社刊 2005年



- 地球温暖化は、未来世代にも大きな影響を及ぼすことから、今を生きる私たちが着手すべき最も重要な課題です。
道では、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボン北海道」の実現を目指し、様々な取組を加速化していくこととしています。
- 私たちの十勝は、既に高い潜在能力を有し、全道のフロントランナーとなり得る地域です。
一方、脱炭素の取組は、個人や企業等の取組だけでは、到底、ゴールにたどり着くことはできませんが、それでも私たちは今、自分たちにできることをやらなければなりません。
- それぞれは小さな行動ではあるけれど、誰もが今すぐ取り組むことができる日常のゼロカーボン行動を着実に実践してまいりましょう。

<取組例>

シャワー

は流しっぱなしに要注意

年間で

約47 kg(CO²)削減
約1,740円の節約に!

※42℃で11分使用時間短縮時

暖房

は2℃下げて20℃にすると

年間で

約88.4 kg(CO²)削減
約3,320円の節約に!

※14畳で1日5~24時までFF石油ストーブ使用時



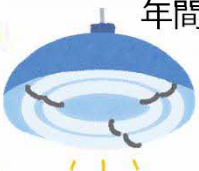
照明

をLEDランプに交換すれば

年間で

約53 kg(CO²)削減
約2,960円の節約に!

※54w白熱電球を9w電球型LED変更時



TV

を明るすぎず、見ないときに消せば

年間で

約26 kg(CO²)削減
約1,440円の節約に!

※32V型で輝度を最大→中間設定にして、1日1時間の使用短縮時



炊飯器

は使わないときにプラグを抜けば

年間で

約27 kg(CO²)削減
約1,500円の節約に!

※7時間保温使用時との比較



温水洗浄便座

の便座暖房は低温に設定、

使わないときは蓋を閉めれば

年間で

約36 kg(CO²)削減
約2,020円の節約に!

※貯湯式で便座設定温度を中→低にした時



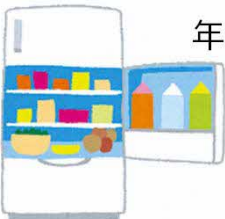
冷蔵庫

は詰め込みすぎなければ

年間で

約26 kg(CO²)削減
約1,440円の節約に!

※満杯時と半分にした時の比較



自動車運転中の一工夫で、安心・安全・経済的

ふんわりアクセル「eスタート」実践で

年間

約194 kg(CO²)削減
約12,560円の節約に!

※発進時、5秒間で20km/hの加速を意識した場合

早めのアクセルオフ実践で

年間

約42 kg(CO²)削減
約2,720円の節約に!



加減速を少なめにすれば

年間

約68 kg(CO²)削減
約4,400円の節約に!

ガソリン1ℓ節約で
2.322 kg(CO²)の削減!
徒歩や、公共交通機関での
移動も意識しよう!



<参考：自分で計算してみよう!>

$$\text{電力消費量(kWh)} \times 0.593 = \text{CO}_2\text{排出量(kg)}$$

※CO²削減量は経済産業省北海道経済産業局「実践!おうちで省エネ」を参考に算出
※削減量・金額は様々な条件により変動するため、あくまでも目安です。

十勝次世代自動車研究会の発足について

ゼロカーボン北海道の実現に向けて、十勝管内をあげて気候変動対策をより一層推進するため、振興局内に北海道気候変動対策十勝地方推進本部を設置し、各課横断的な対応や市町村の取組への支援などを行うとともに、関係機関・団体と一体となって、住民一人ひとりや事業者などが日々の活動において、それぞれが今すぐ取り組むことができる行動の実現に向けて共同宣言を発出するなど、地域全体の機運情勢に取り組んでいる。

これらの取組に加え、官民一体となって、住民や事業者等に対し、脱炭素化に向けたより具体的な取組の一環として、日々の生活や事業活動に密接に関わり、かつ、近年、開発が急速に進んでいる電気自動車をはじめとした次世代自動車※について、知見を深めつつ、管内における普及可能性等を官民一体となって研究するため、関係企業等とともに「十勝次世代自動車研究会」を発足する。

※次世代自動車

電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)、ハイブリッド自動車(HV)、天然ガス自動車、クリーンディーゼル自動車
～「次世代モビリティガイドブック2019-2020(環境省・経済産業省・国土交通省)」

<研究会の概要>

(1) 名称

十勝次世代自動車研究会

(2) 構成

代表：十勝総合振興局長

構成員：北海道電力株式会社道東支社、北海道電力ネットワーク株式会社帯広支店、帯広日産自動車株式会社、釧路トヨタ自動車株式会社、アサヒ電気株式会社

事務局：十勝総合振興局産業振興部商工労働観光課、北海道電力株式会社道東支社販売グループ

(3) 発足日

令和3年12月14日

(4) 主な検討内容

- ・ 管内における次世代自動車の活用方法
- ・ 次世代自動車の開発状況や普及に向けた課題とその解決策
- ・ 次世代自動車導入の機運情勢にむけたプロモーション方法

・ 庁内体制の整備
・ 市町村支援

地域住民や企業
向け機運情勢

より具体的な
取組の進展へ